

# 【成長戦略課題】トマト施設栽培の高収益化に向けた生産性向上技術の確立

(R7～R9)

総合農業技術センター

## 背景・目的

- トマトは釜無川流域沿いで年2作栽培が行われている。
- 抑制作で、温暖化に伴い、猛暑日が年々増加しており、作前半の高温の影響で、収量・品質の低下を招いている。また、それが全国的な課題となっており、9月～11月の販売単価が上昇している。
- 半促成作では、販売単価が低迷している時期であり、燃油価格高騰による生産コスト増加が重なり、収益性低下が課題となっている。
- 以上の課題から、経営基盤が弱体化し、産地維持が危ぶまれている。
- そこで、既存産地の維持強化のため、収量の高いロックウール耕において、安定生産及び生産性向上を目指した技術の確立を図る。



(平均年間収量 土耕:18t/10a ロックウール耕:22t/10a)



## 【本研究の目的】

- ◎ 温暖化で高温にあたる抑制作で高品質安定生産を図る。
- ◎ 収益性が低下している半促成作で生産性向上を図る

## 研究内容

1年目

2年目

3年目

○ 抑制作の高品質安定生産技術の確立

- (1) 栽培管理技術検討
  - ・ 品種、作型、養液管理、遮熱資材
- (2) 高温障害回避のための作期の検討
  - ・ 遅植え密植栽培の検討

○ 半促成作の生産性向上技術の確立

- (1) 暖房費削減技術検討
  - ・ 生長点局所加温
- (2) 収量増加技術検討
  - ・ 養液管理、炭酸ガス施用

○ 経営的評価  
・ コストと収量の収支

○ 経営的評価  
・ コストと収量の収支

## 期待される効果

- 高品質安定生産技術が確立され、販売単価の高い時期に安定出荷ができる。
- 生産性向上技術が確立されることで、生産コスト高騰の中、高い収益性を確保することができる。
- 確立した技術は、土耕、ロックウール耕に関わらず、活用が可能。
- 本県施設トマトの維持・強化に寄与。



高い生産性が実現でき、経営改善が図られて、産地強化につながる！